

評価結果表（保育所版）

みなみえびの保育園

I 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。

1	I-1-(1)-①	評価
理念、基本方針が明文化され周知が図られている。		b
評価コメント	各クラスに、理念・方針が書かれた額を掲示して常に意識するようにしてある。保護者へはパンフレット、ホームページ、重要事項説明等で知らせているが、理解されているかの確認がされていない。年度途中で周知状況を確認したり、再度、説明する機会を設けるなどの取り組みに期待します。	

I-2 経営状況の把握

I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。

2	I-2-(1)-①	評価
事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。		b
評価コメント	定期的な保育コスト等については分析が不十分との認識であるが、借り入れをしている福祉医療機構より分析等取得している。また、経営協議会に加入し多方面からアドバイスを受けている。	

3	I-2-(1)-②	評価
経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。		b
評価コメント	地方における少子化及び人口減少問題から厳しい経営環境であることは間違いない。児童クラブ、子育て支援センター、独自のサロン事業の取り組みも行っている。また、全国保育協議会に加入しているので多方面の保育現場の動きや取り込みができる。来年度は、認定こども園に移行するかの検討をするとの方向性が打ち出されている。	

I-3 事業計画の策定

I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。

4	I-3-(1)-①	評価
中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。		C
評価コメント	地方のさらなる進む人口減少において、経営戦略をどのように進めるか中・長期的に経営計画を模索中である。多角的な視点で新たなニーズを踏まえた計画策定が必要と認識されている。	

5	I-3-(1)-②	評価
中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。		C
評価コメント	中長期計画の策定が困難な状況下ではあるが、単年度の計画は、事業全体の園長、主任会議の中で前年度の反省から策定し、さらなる保育計画充実を目指し策定している。	

I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。

6	I-3-(2)-①	評価
	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
評価コメント	事業計画は職員会議及び研修で職員に周知している。しかし、次期の事業計画策定にあたり、参画は幹部職員にとどまっている。全職員の意見をも集約したうえで、事業計画の策定、実施状況の把握、評価（反省）見直し、再策定に取り組んでいくことが望ましい。	

7	I-3-(2)-②	評価
	事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	b
評価コメント	事業計画書を配布して詳細に保護者へ説明している。また、工夫についてはホームページのブログやYouTube等事業内容を見てもらっている。	

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

8	I-4-(1)-①	評価
	保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	c
評価コメント	PDCAサイクルにもとづき、各個人の強味・弱み、園全体の課題を導き出して、次のステップにキャリアアップしていく仕組みづくりや、第三者評価等を定期的に受審するなど、福祉サービスの質の向上に向けた、組織的で計画的な取り組みを検討していく必要がある。	

9	I-4-(1)-②	評価
	評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	c
評価コメント	日常業務での課題や改善策については、職員ミーティングで共有が図られている。保育の質を上げる取り組みとして、今回初めて第三者評価を受審されたことで、新たな気づきを得られていることから、今後は定期的な受審を計画されたい。第三者評価等の自己評価は全職員で取り組まれることを期待したい。	

II 組織の運営管理

II-1 管理者の責任とリーダーシップ

II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。

10	II-1-(1)-①	評価
	施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
評価コメント	施設長は、他県で長年にわたり保育に対する熱意と責任をもって取り組んでおられる。しかし、その過程が広報誌等で文書化されておらず、十分な表明がなされていない。施設長の権限、権限委任については、職務分掌で明らかに文書化され、組織内で周知されている。	

11	II-1-(1)-②	評価
	遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
評価コメント	遵守すべき法令の最新情報は、把握・周知している。園長は、行政主導の園長会等に参加したり職能団体や社会福祉経営者協議会等にも加入して情報収集している。一方でその内容について具体的なことや専門的なことを学ぶ機会が少ないとの認識があり、専門的理解を深める研修への参加が望まれる。	

Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。

12	Ⅱ-1-(2)-①	評価
保育の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。		b
評価コメント	保育の質の向上を図るためには、人材確保と定着が最大の課題であるとして、人材確保に力を入れているが定着が難しい。人事考課を取り入れて、給与に反映することで、保育の質の向上を目指している。今後は、職員の意見を反映したり、保育の質の評価だけでなく分析を行い、保育の質の向上を行うことが望まれる。	

13	Ⅱ-1-(2)-②	評価
経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。		a
評価コメント	ライフワークバランスにも理解を示し、有給休暇が時間単位で取れるようにしたり、感染症での欠勤は欠勤控除をせず、「療養休暇として有給」とするなどして、働きやすい職場づくりを目指している。	

Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。

14	Ⅱ-2-(1)-①	評価
必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。		b
評価コメント	県内外の保育士養成校からの紹介や人材紹介会社を通して採用している。定着の取組みとしては、家庭の事情等を考慮し、休みを取りやすくしたり、変形労働時間制を採用している。	

15	Ⅱ-2-(1)-②	評価
総合的な人事管理が行われている。		b
評価コメント	期待する職員像としては、「子どもが好きで笑顔で保育ができる人。周りとの調和を図りながら専念できる人。」をあげている。しかし一方で、職員が自らの将来を描くことができるような総合的な仕組み作りについては今後の課題となっている。	

Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

16	Ⅱ-2-(2)-①	評価
職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。		a
評価コメント	健康管理を考慮し、時間外労働にならない工夫と効率化を職員に促したり、悩みがあれば、主任や園長に相談する体制になっている。福利厚生面では、職員からの希望により、住宅手当を追加した例がある。夏休みとして、有給休暇を3日与えられる。就業後6月に満たない場合、希望すれば、有給休暇を前借りできる。家庭の事情等も考慮し、有給休暇を時間単位で取得したり、変形労働時間制を採用している。	

Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

17	Ⅱ-2-(3)-①	評価
職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。		b
評価コメント	期待する職員像を明確にし、育成体制を整えている。一方で、経験年数などによる目標項目や目標水準の設定が曖昧で、達成を共有できる仕組みづくりが求められる。	

18	Ⅱ-2-(3)-②	評価
職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。		b
評価コメント	保育士の資格があるものを採用し、園が指定した外部研修を受講している。しかし、研修成果の評価や分析が十分にはなされていない。今後、教育・研修計画の策定、研修受講、評価分析、次期の教育・研修とPDCAに沿って反映していかれることを期待します。	

19	Ⅱ-2-(3)-③	評価
職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。		b
評価コメント	キャリアに応じたキャリアアップ研修を受講している。また、新任職員には、教育係が習熟度に配慮しつつOJTを行っている。現在、保育や看護等の資格を持たないものは、保育者としての採用はしていない。	

Ⅱ-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

20	Ⅱ-2-(4)-①	評価
実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。		b
評価コメント	実習生受け入れの際は、事前に学校側と綿密な打ち合わせを行い、実習の成果が上がるよう実習期間中も学校側との連携を図っている。今後、園の基本姿勢を明文化したり、マニュアルの整備や実習指導者への研修の確保が待たれる。	

Ⅱ-3 運営の透明性の確保

Ⅱ-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

21	Ⅱ-3-(1)-①	評価
運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。		b
評価コメント	保育内容や財務諸表はワムネット等で情報公開している。事業所で行っている活動を説明した印刷物を自治会の回覧板で回したりはしているが、そこに理念や基本方針の記載はしていない。今後は、園が行っている活動や保育方針を地域住民に知ってもらえるような取り組みに期待します。	

22	Ⅱ-3-(1)-②	評価
公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。		b
評価コメント	会計士による監査支援が行われているが、事務、経理、取引等に関するルールを周知したり、内部監査を実施するなどの検討が待たれる。	

Ⅱ-4 地域との交流、地域貢献

Ⅱ-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。

23	Ⅱ-4-(1)-①	評価
子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。		b
評価コメント	地域交流では、主に近隣園との年長交流会、消防署、警察署、高校など地域交流に積極的に参加したり、納涼祭や産業まつりなどへ作品展示している。また、独自の事業として、子ども食堂に似た機能を持つ「茶論 寺子屋」を月1回開催し喜ばれている。しかし、活用できる社会資源について保護者への情報提供についてはなされておらず、今後の取り組みに期待します。	

24	Ⅱ-4-(1)-②	評価
ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。		b
評価コメント	高校生のボランティアや中学生の職場体験の受け入れはしているが、ボランティア受け入れマニュアルの整備が未着手となっている。ボランティア等受け入れに関する基本姿勢や受入れ担当者を明確にするために文書化されることを望みます。	

Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。

25	Ⅱ-4-(2)-①	評価
保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。		b
評価コメント	行政や自治会、社協などの福祉関係機関、医療機関や団体とのつながりは持っている。しかし、リストや資料づくり、関係機関、団体と共通の問題解決に向けた取り組みは今後に期待します。	

Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

26	Ⅱ-4-(3)-①	評価
地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。		b
評価コメント	同敷地内に子育て支援センターが併設されており相談に応じる機能を有しているため、保育所として福祉ニーズを把握したり、相談に応じてはいないが、法人として情報共有している。今後、さらに地域に溶け込み、福祉ニーズや生活課題の把握に努め、リーダーシップを発揮していかれることを期待します。	

27	Ⅱ-4-(3)-②	評価
地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。		b
評価コメント	併設している学童保育で、月1回、遊びながら学ぶ居場所を提供しており、子ども食堂の機能も有している。そこから、福祉ニーズや生活課題を把握していく取組みがなされている。さらに園舎が新しく、耐震基準を満たしていることから、地震災害などあれば、近隣の高校、中学校などと協力して、「こども避難所」として地域へ還元できる機能は有している。今後はそれを形にしていく取り組みに期待したい。	

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。

28	Ⅲ-1-(1)-①	評価
子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。		b
評価コメント	理念は、各教室に掲げられ、常に意識するようになっている。子どもが互いを尊重する心を育てるために、絵本や紙芝居などで教育している。今後は、子どもの人権、文化の違い、互いに尊重する心について、職員だけでなく、保護者に理解してもらえるような取り組みに期待します。	

29	Ⅲ-1-(1)-②	評価
子どものプライバシー保護に配慮した保育が行われている。		b
評価コメント	子どものプライバシー保護に関するマニュアルの準備がないため、職員や子ども・保護者に対して、理解と周知が十分とはいえない。マニュアルを整備し、職員、保護者の共通理解の下、保育を展開されたい。	

Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

30	Ⅲ-1-(2)-①	評価
利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。		b
評価コメント	理念や保育方針などは、園のホームページで伝えている。しかし、パンフレット等を公共機関等で入手することはできなため、多くの人が園の情報を収集できるような工夫を望みます。	

31	Ⅲ-1-(2)-②	評価
保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。		b
評価コメント	入園時期にばらつきがあるため、見学や面談の際に個別で説明を行っている。しかし、理解が不十分だと感じている保護者意見もあるので、保護者と協力しながら保育を行っていく観点から、十分な説明を行い、理解を得る必要があります。さらに、園を変更する際の手順や引継ぎ文書のマニュアル化も必要です。	

32	Ⅲ-1-(2)-③	評価
保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。		b
評価コメント	保育園の変更にあたり、利用が終了しても相談できる体制は整えているが、それが文書化されていない。手順や引継ぎ文書の作成、アフターフォローについての文書交付について、今後の取り組みに期待します。	

Ⅲ-1-(3) 利用者満足の向上に努めている。

33	Ⅲ-1-(3)-①	評価
利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。		b
評価コメント	保育参観や給食の試食会において、意見聴取はしている。今回、第三者評価で実施した利用者アンケート結果から把握した結果を分析検討し、具体的な改善を実施するために、利用者満足に関する調査担当者を設置し、利用者の満足向上に努められることを期待します。	

Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。

34	Ⅲ-1-(4)-①	評価
苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。		b
評価コメント	利用者からの苦情相談窓口は、重要事項説明書に記載されている。苦情・相談の内容の相談記録簿を整備している。今後は、苦情・相談・要望の内容、及び、解決・改善結果を、相談申し出者に配慮したうえで、情報開示されることを望みます。	

35	Ⅲ-1-(4)-②	評価
苦情解決の仕組みは園内の目につきやすい場所に掲示し保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。		b
評価コメント	相談は個室で行い、相談内容によっては、専門機関へつないでいる。複数の相談相手の中から、相談しやすい者を選べる仕組みや相談方法（電話、メール、対面等）の工夫と文書化の検討を望みます。	

36	Ⅲ-1-(4)-③	評価
保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。		b
評価コメント	相談や意見については検討した内容や対策について迅速な回答を心がけている。今後の課題として、苦情・相談対応マニュアルの作成と定期的な見直し、匿名でも意見・要望が伝えられる意見箱の設置が望ましい。	

Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。

37	Ⅲ-1-(5)-①	評価
安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。		b
評価コメント	ヒヤリハット研修からリスクを回避する研修を定期定期に行っているが、リスクマネージャーの研修に参加する機会が得られていない。今後は、職員が主体となって、他園での事故事例を収集し分析するなど、事故予防に取り組む体制づくり（委員会活動等）に期待します。	

38	Ⅲ-1-(5)-②	評価
感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。		b
評価コメント	「保険だより」や「感染症案内」を玄関の壁面に貼って保護者にも注意喚起を行っている。しかし、保護者アンケートでは、「見落とすことありメールやアプリでの通知希望」ともあるため、検討を望みます。	

39	Ⅲ-1-(5)-③	評価
災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。		b
評価コメント	自然災害に対して職員の自衛消防組織を結成している。安否確認の方法は、メールで行う。今後、近隣の消防、警察、自治会などと共同で防災訓練などを実施していかれることを望みます。	

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。

40	Ⅲ-2-(1)-①	評価
保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。		b
評価コメント	保育については、標準的な実施方法はマニュアル化されている。クラス運営は、各担任の自主性を尊重し、工夫して行っている。	

41	Ⅲ-2-(1)-②	評価
標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。		c
評価コメント	標準的な実施方法の見直し時期を決めて、指導計画の内容と職員や保護者からの意見や提案が反映されることを望みます。	

Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。

42	Ⅲ-2-(2)-①	評価
アセスメントにもとづく指導計画を適切に作成している。		C
評価コメント	支援困難ケースについては、専門機関につなぎ、アドバイスを受けながら対応している。しかし、保護者からの聞き取りは行っているが、アセスメント手法（情報収集・課題分析・具体的なニーズの抽出）については、今後の課題と認識されています。アセスメント手法を確立し、職員間で共有されることを望みます。	

43	Ⅲ-2-(2)-②	評価
定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。		C
評価コメント	定期的な指導計画の評価・見直しについては十分でないと認識されています。今後、PDCAサイクルによる指導計画の作成の取組みに期待します。	

Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。

44	Ⅲ-2-(3)-①	評価
子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。		b
評価コメント	保育記録は保育所が定めた方法で記録されている。特別なことがあれば、別様式で記録を残している。今後は、保育記録の標準化についての研修を行い、記録の標準化については、今後に期待します。	

45	Ⅲ-2-(3)-②	評価
子どもに関する記録の管理体制が確立している。		b
評価コメント	子どもに関する記録の管理については園長や理事長が管理している。社会保険労務士に相談しながら、個人情報保護（守秘義務等）については、就業規則に規定されており、漏洩や不適切な利用がないよう、入職時に誓約書を取得している。今後は、個人情報の取り扱いや開示について、保護者に説明されることを望みます。	

A-1-(1) 全体的な計画の作成

A①	A-1-(1)-①	評価
保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。		b
評価コメント	法人の理念や全体計画は事業者（本部）で策定し、職員や保護者への周知が図られている。保育所では子どもの発達、保護者や地域の状況に応じた保育課程に基づく指導計画を年度末に全職員で評価している。今後は、評価結果が法人の全体的な計画への反映について職員や保護者への周知に期待します。	

A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開

A②	A-1-(2)-①	評価
生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。		a
評価コメント	平均室温20℃の環境で定期的に消毒液で遊具や家具を清拭し、配置も工夫している。共通のトイレは明るく立式と個々にドア付きの座式がある。1歳までは保育室でオマル使用し、2歳男児は保育士が付き添って立式トイレの練習をしている。手洗いは自動水栓で利用しやすい高さである。	

A③	A-1-(2)-②	評価
一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。		a
評価コメント	個別計画に保育記録、評価、ケース会議等でクラスの担当者と共有している。子どもが安心して表現し達成感が得られる様に、保育士の言葉や表情を自覚して、共通課題の対応に努めている。	

A④	A-1-(2)-③	評価
子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。		a
評価コメント	年齢別保育計画に生活習慣の目標を掲げ、保護者と共同で習得段階を確認しながら達成できた事に共に喜び、生活習慣の理解と自信に繋がるように働きかけている。	

A⑤	A-1-(2)-④	評価
子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。		a
評価コメント	「遊び単元」保育で自律心と自主性を育てる遊びを展開している。異年齢との自由遊びは社会的ルールや人間関係が育まれる機会となっている。食育と共有し年齢別野菜の収穫体験、季節毎の行事は年長児指導で実施している。	

A⑥	A-1-(2)-⑤	評価
乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		a
評価コメント	特定の保育士により愛情豊かに応答的に行われている。運動や感覚機能の発達に応じた乳児室の仕切りの工夫や玩具の選択に配慮している。離乳食は家族、栄養士を含めて進め、連絡帳や送迎時にも報告している。	

A⑦	A-1-(2)-⑥	評価
3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		a
評価コメント	年齢別標準保育を重要事項説明書に明記し、年、月単位の指導計画を作成し行事計画として実施している。基本的な運動や身体機能の発達に個人差があり、遊びや基本的な生活習慣で自分ができる事を増やしていく。	

A⑧	A-1-(2)-⑦	評価
3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		a
評価コメント	ハロウィンやクリスマス等の季節毎の催事やお店ごっこ等、全員参加型の行事も多く保護者の参観もある。5歳児が全員で企画し、3、4歳児はできる事で参加している。全員参加するイベントは年齢毎の保育における養護と教育が一体的に展開されている。	

A⑨	A-1-(2)-⑧	評価
障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		a
評価コメント	身体障害児保育ができる構造で設備も整っている。日本ポーターズ協会「グループ指導カリキュラム」を全体計画に位置づけ、合同保育の中で全職員で周知をはかり、巡回相談の保健師と子どものアセスメントを作成し共通理解のもとで対応している。	

A⑩	A-1-(2)-⑨	評価
それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		a
評価コメント	指導計画では、昼食前の主活動は全身を動かす遊び、午睡後はゆったりとした内容である。延長保育移行では、連絡ノートにより担任との引き継ぎを行ない、異年齢児にも共有できる絵本の読み聞かせや、子どもたちで決めた遊びを取り入れている。	

A⑪	A-1-(2)-⑩	評価
小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。		a
評価コメント	指導計画の卒園までに基本的な生活習慣と社会性、自立心の向上を全員が達成できるよう取り組んでいる。更に知る楽しさや好奇心高める目的で外部講師による習字や英語、スポーツ教室を実施している。保育士が小学校の授業を参観したり、幼保小連絡協議会にて情報交換し共有を図っている。	

A-1-(3) 健康管理

A⑫	A-1-(3)-①	評価
子どもの健康管理を適切に行っている。		a
評価コメント	保健計画1から4期を作成し、子どもの健康管理及び重大事故防止マニュアルに基づき健康状態の把握と対策がとられている。入園前後の健康状態は個人記録により保護者で共有し、年間保健計画の目標及び活動内容、感染症情報等を保健だよりで毎月情報提供している。全職員はSIDS対策の2歳未満児の入眠中5分毎の確認、AED操作や救急蘇生法の応急処置は繰り返し学習し熟知している。	

A⑬	A-1-(3)-②	評価
健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。		b
評価コメント	今年度は、年2回の健康診断時に保護者が相談したい内容のアンケートを実施して、健康診断結果と診察医の回答が周知された。歯科健診は年1回であり、健診後の齲歯の有無や治療状況の記録が望まれる。	

A⑭	A-1-(3)-③	評価
アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。		a
評価コメント	慢性疾患やアレルギー疾患を安全計画の重大事故防止の対象疾患として全職員が必要な知識や技術を習得し、誤配膳対策は配膳ラップや手渡し実施している。対象児の保護者だけでなく全保護者にも園、保健、給食各だよりを発行している。	

A-1-(4) 食事

A⑮	A-1-(4)-①	評価
食事を楽しむことができるよう工夫をしている。		a
評価コメント	本日の献立サンプルを年齢に応じた調理形態毎にショーケースに展示しており、子供と保護者も内容が理解できる。年間計画には保護者の試食会、献立やレシピの配布、食育活動の掲示、個別相談等保護者の要望に対応している。個人差に応じた量の配膳で、完食した達成感が得られるように調理職と情報を共有している。3、4人のテーブルで会話に時間取られるが、職員は急かせる言葉や表情に留意して楽しい食事になるように務めている。	

A⑯	A-1-(4)-②	評価
子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。		a
評価コメント	3大アレルギー中の卵と小麦粉の除去食で全員が同じ物を食べる取組みをしている。偏食や調理形態の連絡時は調理職員も食事の様子を見て献立や調理に反映し、子どもたちの話を行事食やリクエスト食にしている。調理室入らずに対話や見学用の窓口があり、調理室や検便等を衛生管理チェックシートで確認している。	

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭との緊密な連携

A⑰	A-2-(1)-①	評価
子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。		a
評価コメント	年間計画に保護者の行事への参加や保育参観、引渡し訓練、個別面談を通して直接相談できる機会を設けている。連絡帳や登降園時管理システムを利用して保護者と日常的に情報交換を行っている。	

A-2-(2) 保護者等の支援

A⑱	A-2-(2)-①	評価
保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。		a
評価コメント	登園時は保護者もクラスまで子どもと一緒にいき、友達との交わりを通して子どもの成長課程を把握できる機会となっている。保護者からの相談は、担当保育士や専門職員も参加している。相談記録は主任保育士や園長が確認し直接相談に対応し、必要時は関係機関等に支援を仰ぐ体制がある。	

A⑲	A-2-(2)-②	評価
家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。		b
評価コメント	身体的虐待が疑われる場合は職員は連携して排泄や着替えの時に入念に身体観察する事を周知している。全国的には心理的虐待は増加傾向にあるので既事例を取集し事例研修等で保護者の精神面、生活面の援助ができるスキルアップが望まれる。	

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）

A⑳	A-3-(1)-①	評価
保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。		b
評価コメント	保育実践の振り返りには、「子どもへの対応」「保護者対応」「職員間の連携」「自己成長・業務遂行」から構成されるが、当園では保育所における保育士としての自己を省察する「職員間の連携」と「自己成長・業務遂行」について、6項目5段階評価を年1回実施している。自己評価の客観的な結果を保育実践の改善や専門性の向上という目指す方向に捉えるように努めている。	